

受付番号 2025-59

許可番号 大歯医倫 第 111453 号

研究課題名 中年・老年期における歯ブラシと歯間清掃具の併用による歯間部プラーク除去効果に関するランダム化シングルブラインドクロスオーバー試験

研究責任者 島田 明子 申請者 寺島 雅子

研究終了日 2027 年 3 月 31 日

所属 医療保健学部 口腔保健学科 所属 医療保健学部 口腔保健学科

職名 教授 職名 助教

申請の概要

歯の喪失の原因の 1 つに歯周病が挙げられ、令和 6 年歯科疾患実態調査によると、4mm 以上の歯周ポケットを有する者の割合は、50 歳代で急激な増加が認められる。50 歳以降は歯周病の有病率が高く、その進行が加速する時期であり、歯周病予防に効果的な口腔衛生管理が求められる。その手段として、歯ブラシと歯間清掃具の併用は効果的であるとされている。

歯間清掃具には歯間ブラシとフロスがあり、歯間乳頭が歯間空隙を満たしている場合はフロス、過度の力を加えずに挿入できる程の十分なスペースのある開放された空隙には歯間ブラシの使用が推奨されている。先行研究では、歯肉退縮の有病率は年齢とともに増加傾向にあることが報告されており、50 歳以降では歯周病に伴う歯肉退縮により歯間空隙が拡大している者の割合が高いと推測される。このことから、50 歳以降は、若年者と比較して歯間ブラシの適応部位が多いと考えられるが、歯間清掃具の使用実態として 50 歳以上の約 50%が、常時または時々フロス類を使用しているという報告もある。これまでに歯ブラシと歯間清掃具の併用効果について検討した先行研究の多くは、研究対象者の平均年齢が 30～40 歳前後と比較的若く、歯周病の有病率が増加し始める 50 歳以降を対象に歯間清掃具の併用によるプラーク除去効果や歯間清掃具間の清掃効率の比較を行った研究は少ない。

そこで本研究は、中年・老年期における、歯ブラシと歯間ブラシおよび歯ブラシとフロスとの併用による歯間部プラーク除去効果の比較、および、各歯間清掃具における 1 回当たりの使用時間と清掃効率との関連性の検討を目的とする。

本研究によって、これまで十分に検討されていない中年・老年期における歯間清掃具の併用効果が明らかになれば、全年齢層を対象とした体系的なエビデンスの蓄積に貢献できると考える。本研究における本学の役割は、試験の実施および解析である。